

総合計画審議会委員の意見反映状況

各委員からのご意見のうち、基本構想案の段階で反映したご意見については、以下のとおりです。具体的な取組については、今後、基本計画に記載します。

●第3回審議会における意見と構想案への反映

高橋(和)委員	○取り組んでいる研究の中で、①地域への愛着を持っていることが、その地域で暮らすことへの活力や健康にもつながるところを確認していた。ソーシャルキャピタルという言葉があり、②地域の中で支えたり、支えられたりということや、信頼・ネットワークといった繋がりが地域で暮らしていく安心にもつながると言われている。 ⇒①P5 基本目標4 下から3行目に追記 誰もが生涯を通じて学ぶことができる機会や世代間が交流する機会などを充実することで、心と体の健康維持や地域で暮らす活力の創出に取り組みます。 ⇒②P5 基本目標4 1～3行目に追記 誰もが普段の暮らしに幸せを感じながら生き生きと暮らすためには、みんなで地域を守り、育み、支え合うことができる環境づくりが大切です。
阿部委員	○基本構想の基本目標1から基本目標7まで非常に整っているが、これを全部やるとなると市民力、皆さんや若い人たちの力も非常に重要になる。富谷市に住むと幸せになるという構想があって、行政でもこうやって取り組んでいるということを市民の皆さんに理解していただく場面がもっとあれば、市民力もアップしていくのではないかなと思う。 ⇒P7 基本目標7 1～3行目に追記 市民が必要としている情報や、市が知ってほしい情報を効果的に伝えるなど、開かれた市政を推進することにより、富谷をさらに知り、富谷を愛する市民を増やします。
清野委員	○最近テレビ CM の中で、日本のこどもの幸福度ランキングが非常に低い順位で出ているものを見た。私も親であるが、富谷市は子どもにやさしいまちづくりの中で子どもを優しくサポートされていることは非常に良いと思うが、こどもが感じる幸福度とは実際にはどんなものだろうと、実際のこどもたちがどう感じているのかを理解することが非常に大事ではないかと思う。 ⇒P5 基本目標3 5～7行目を修正 そして、こどもの権利が保障され、まちの活動に活発に参加できるよう、こどもの意見を市政へ反映させるとともに、こどもの目線を大切にしながら「子どもにやさしいまちづくり」を推進します。
石井委員	○行政の文章は難しく書かれていたりするが、おそらく中学生の方が見ても分かりやすい言葉で作ってあると思う。これは非常に大事で、子どもにやさしいまちづくりと言いながら、こどもが見ても分からないような基本理念が書いてあるとしたら、それは全然やさしくない訳で、①3ページ以降の基本目標のところの言葉が難しそうであれば、もう少し検討する必要があるのではないかな。また、②2ページの「こども」という表現が漢字とひらがなのところがあるので、統一した方がよいかなと思う。 ⇒①P4 基本目標1 2行目を修正、7行目に追記 ・「質の高い雇用」→「魅力ある雇用」 ・「地域資源」→「歴史・文化などの地域資源」 ⇒②P2 まちづくりの柱・基本目標3のこどもの表記を統一

菅原委員	○基本目標3の中で、市全体として子どもたちを支えるとともにこどもの目線を大切に、こどもの意見を反映するといった記載があり、まさしく子どもにやさしいまちづくりの推進とはこれではないかと思った。<u>こどもたちは一人ひとりが色々な考えを持っていて、それをディスカッションしたりすることで、大きな力になってくる</u>と思っており、守られるだけ、支えるだけではなく、自分たちがそれを発信して、一人の市民として富谷市に貢献するという力がある。 ⇒P5 基本目標3 5～7行目に追記 そして、<u>こどもの権利が保障され、まちの活動に活発に参加できるよう、こどもの意見を市政へ反映させるとともに、こどもの目線を大切にしながら「子どもにやさしいまちづくり」を推進します。</u> ○社会福祉協議会で、支えあうということについての研修があったが、支える側のことがクローズアップされる一方で、支えられる側の方は意外と何も準備ができていないではないか、例えば、「何か困っていることがあって『助けて』と大きい声であなたは言えますか」と聞かれたときに、助けてと言える人は本当は少ないのではという話があった。<u>支えられることが必要になったときに自分で「助けて」と言えるようにすることが、とても重要なのではないかなと思う。それが誰もが普段の暮らしに幸せを感じながら生き生きと暮らせるまちに通じるのではないか、発信できない人に対しても取りこぼしなく、何かできることがあれば良いのではないかなと思う。</u> ⇒P5 基本目標4 4行目に追記 将来にわたって住み慣れた地域で自分らしく、安心して暮らせるよう、<u>人と人がつながり、誰もが困った時に相談できる「みんなにやさしい、愛のある共生のまちづくり」に取り組めます。</u>
富田委員	○できることであれば施策の中にデジタル活用を入れてほしいと思っている。これからはデジタルもどんどん活用していく、それこそが地方創生なり、市民の皆さんの力になっていくと思うし、それを実現することで一歩でも二歩でも先に行く自治体を実現してほしいと思っている。 ⇒P7 基本目標7 下から2行目に追記 <u>さらに、各分野において DX を取り入れ、市民サービスの向上や効率的な行政経営に取り組めます。</u> ○基本目標1の産業・観光分野の最初の一文がすごく攻めていると思っている、「半導体をはじめとした製造業を、質の高い雇用を創出することを目的として誘致する」という部分に少し疑問がある。企業を誘致することはもちろん必要であるが、<u>もっと目指すところが多様な企業であるとか、個人として色々な選択肢を持てるような多様な雇用機会の創出を目指す、この富谷市には色々な産業があって、それが複合化してイノベーションが起きているという姿が目指すところではないかな</u>と思っている。 ⇒P4 基本目標1 1～3行目を修正 市民が身近な地域で働き、豊かな暮らしが実現できるよう、<u>誰もが</u>市内で働きたくなる<u>多様な企業</u>の誘致を積極的に展開し、<u>魅力ある</u>雇用の創出を図ります。
村上委員	○森はストレスがない、森に行くとストレスが解消という風に実感している。森林浴の効果などを利用して心と身体の健康を整えるため、こどもから高齢の方々までみんながそこに来るという居場所づくりも大事だと考えている。 ⇒P6 基本目標6 下から2行目に追記 本市の豊かな自然環境や美しい田園風景を守り、都市機能と調和した、<u>緑や季節の彩りを身近に感じることができる、環境にやさしく、富谷らしい田園都市を目指します。</u>

小松委員	○昨年「とみやど」でファーマーズマーケットの一員として活動させていただいており、その準備で、色々と打ち合わせをやっていく中で、もともと富谷市の農業者を助けたいということから始まったファーマーズマーケットではあるが、なかなか特産品の話になると難しいという話になる。せっかく「とみやど」という観光スポットがあるので、ただそこで食べて帰ってもらうだけではなく、そこに来れば富谷市のものが分かるような形にしたいという話は毎回出てきているので、そういった特産品の開発にもう少し力を入れていきたい。 ⇒P4 基本目標1 7～9行目に記載 また、豊かな自然環境や<u>歴史・文化などの地域資源</u>を生かした富谷ならではの観光スポットの充実を図るとともに、<u>新たな特産品の開発など</u>によるブランド価値の向上に取り組めます。
増田委員	○子どもたちの幸福度日本一の国を視察した方が、現地の学校を案内してもらったときに校長先生から「自立とは『助けて』と言えることだ」と聞いたそうである。「ちょっと今大変なので助けて」と言える、「なんだ、早く言ってくればよかったのに」という関係性ができていることがすごく大事である。 ⇒P5 基本目標4 4行目に追記 将来にわたって住み慣れた地域で自分らしく、安心して暮らせるよう、<u>人と人がつながり、誰もが困った時に相談できる</u>「みんなにやさしい、愛のある共生のまちづくり」に取り組めます。 ○市民ワークショップに参加し、富谷高校の男子生徒と一緒にあったが、最後に「すごく楽しかった。参加してよかった」と言っていた。こういう場を作ってもらった、自分たちの意見を真剣に聞いてもらったということが、その意見が反映されるというのは二の次としても、<u>こういった場があるということがすごく大事なのではないかな</u>と思った。一部の生徒の参加だったと思うので、単発で終わらず、少しでも繋がっていくような仕組みづくりをしていくと、もっと広がっていくのではないかと感じた。 ⇒P5 基本目標3 5～7行目に追記 そして、<u>こどもの権利が保障され、まちの活動に活発に参加できるよう、こどもの意見を市政へ反映させるとともに</u>、こどもの目線を大切にしながら「子どもにやさしいまちづくり」を推進します。 ⇒P7 基本目標7 6～8行目に追記 <u>併せて、市民の意見を市政に反映できるよう、これからも市民の声を大切に市政運営に取り組めます。</u> ○1つ気になったこととして、目標の言葉はすごく良いと思うが、その後の文章が少し長いと思う。今ある文章1つを2つくらいのセンテンスに分けてよいのではないかなと思う。良く読むとどれも大事なことが書いてあるので、<u>短くセンテンスを区切る工夫をしていただく</u>とよいと思う。 ⇒P4～7 基本目標1～7を修正
新藤委員	○基本目標7の「協働でつくる持続可能なまち」にある地域活動について。私どもでは、毎年日吉台中学校の地域防災訓練を実施している。これは日吉台の各町内会に住んでいる中学校の生徒と町内会が連携して行っている防災訓練で、市の訓練とは別のものになる。自分の住んでいる地域の防災訓練に参加することで、<u>自分の地域一員としての自覚を促す、あるいは地域の活動に進んで参加する中学生を育成する機会</u>にもなると考えて行っている。協働でつくるという意味では、<u>地域活動が最大のものであると思うので、そういったものを常日頃から育てていくようなこと取組が必要ではないか</u>と思う。

新藤委員	⇒P5 基本目標3 下から2行目を修正 併せて、家庭・地域・学校・行政が連携した学校づくりに取り組み、豊かな心と富谷への愛着を育みます。 ⇒P7 基本目標7 4～6行目を修正 市民一人ひとりが市への愛着や地域への誇りを持ち、地域の課題を自分ごととして捉えることで、市民が主体的に活動し、“市民力”を発揮することができる「市民が主役のまち」を目指します。
------	--